

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

昭和52年度中央図書館利用状況の概要

中央図書館の利用状況について、昭和52年度利用統計をとりまとめた。これらのうち主要なものを図表にして次に掲載する。

(注) 表中の〔 〕は前年度データである。

- 1 全学利用対象者総数 18,307人
 分館（医・農）利用対象者を除く数 13,938人
 近接部局利用対象者数 7,340人

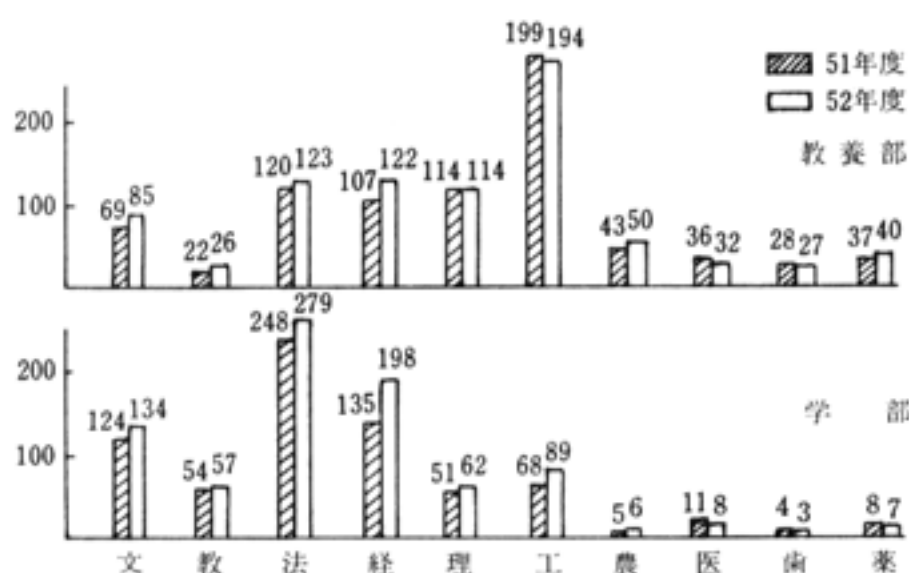
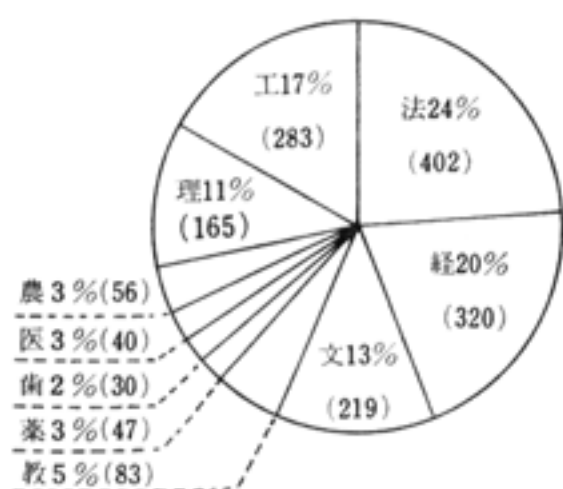
2 推定入館者数

1 年間総数 470,288人
 [431,000人]
 1 日平均数 1,656人
 [1,480人]



学生部局別入館者数（入館者調査結果）

	文	教	法	経	理	工	農	医	歯	薬	計	合 計
教養部 1 日平均(人)	85	26	123	122	114	194	50	32	27	40	813人 [775]	1,656人 [1,483]
1 人当年回数	70	52	73	70	56	33	44	38	49	64	50回 [48]	
学部 1 日平均(人)	134	57	279	198	62	89	6	8	3	7	843人 [708]	48回 [44]
1 人当年回数	107	101	134	111	28	15	5	4	6	13	47回 [41]	



3 開架図書室、閲覧・貸出冊数

単位百冊

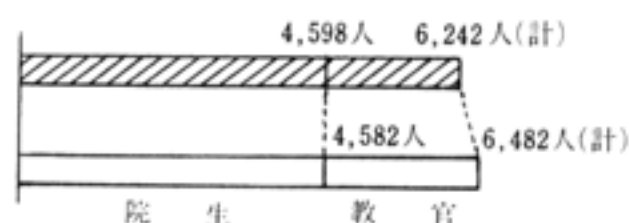
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
閲 覧	38	48	53	189	303	28	3	23	112	94	13	904
貸 出	10	32	25	93	121	14	0.7	7	6	53	—	361.7

4 メインカウンター、閲覧・貸出冊数

単位百冊

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
閲 覧	4.4	2.7	5.7	14.0	0.5	0.3	0.1	1.3	0.4	10.3	18.4	58.1
貸 出	15	28	27	75	5	—	—	4	4	17	22	197

5 入庫者数の変化



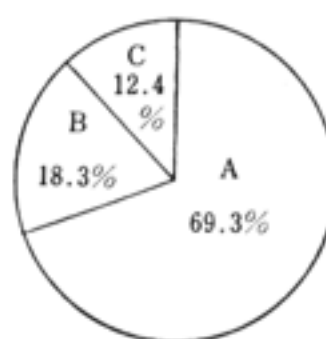
6 文献複写実績

件数	3,720件	枚数	61,344枚	金額	2,992千円
	[3,718]		[59,993]		[2,810]
学内	2,623件		1,059千円		
	[2,814]		[1,194]		
学外	1,097件		1,933千円		
	[904]		[1,616]		

7 レファレンス応答件数 5,670件 [5,026]

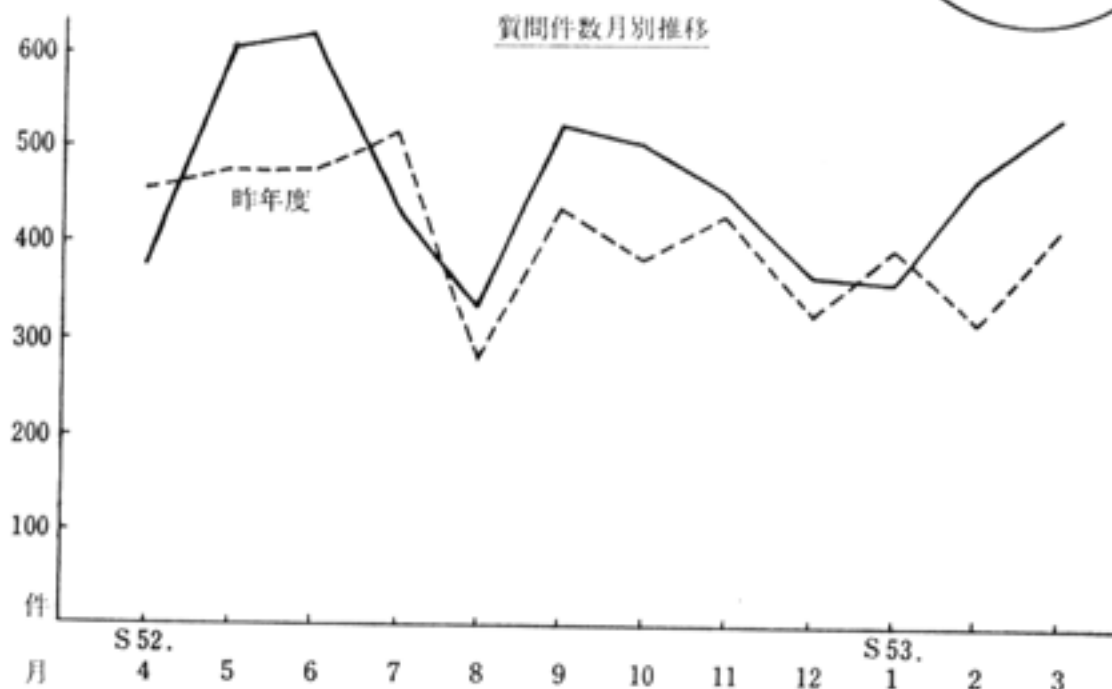
	教官	院生学生	図書室	計
人文社会	342 [412]	1,317 [996]	14 [17]	1,673 [1,425]
自然	1,137 [1,060]	1,556 [1,531]	84 [142]	2,777 [2,733]
計	1,479 [1,472]	2,873 [2,527]	98 [159]	4,450 [4,158]

質問内容別比率

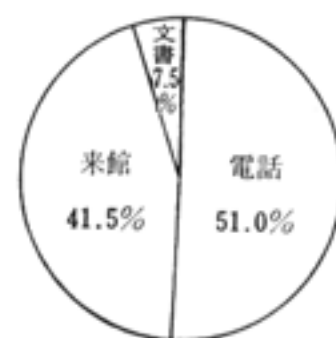


A: 文献所在調査
B: 雑誌的事項確認
C: 利用指導

質問件数月別推移



質問手段別比率



前号に引続き、宮城県沖地震関係文献のその後確認し得たものを以下に紹介します。
このことについてのお問合せは本館・参考調査掛に願います。

宮城県沖地震関係 文献一覧・3

地震と地震動

- (255) [(42) 地震学会講演予稿集・昭和53年度
秋季大会—1978, No.2—の内, 関係分]

A53: 伊豆大島近海地震および宮城県沖
地震に関する地下水位, 温泉温度
の前兆現象について, 平賀士郎

地震災害一般

- (256) 東京都: 1978年宮城県沖地震に関する東京
都調査団報告, 東京, 同都, 昭53.6. 14頁.
(257) 埼玉県: 1978年宮城県沖地震調査報告,
浦和, 同県環境部消防防災課, 昭53.8. 52頁.
(258) 宮城県総務部: '78 宮城県沖地震災害の概
況—応急措置と復興対策—,
仙台, 同部, 昭53.12. 135頁.
(259) 宮城県土木部砂防課: 1978年宮城県沖地震
報告, 砂防と治水: 11巻3号, 18~25頁,
口絵写真, 昭53.11.

- (260) 材野博司：都市全体の空間的安全性—必要とされる都市施設の“余裕”と“逃げ”—（特集・宮城県沖地震の教訓・Ⅱ）。
政経東北：7巻8号，17～23頁，昭53.8.
- (261) 政経東北（編集部）：“欠陥”の証明—危険と隣合わせの都市生活—（特集・宮城県沖地震の教訓・Ⅰ）。
政経東北：7巻8号，10～16頁，昭53.8.
- (262) 政経東北（編集部）：原始生活を強いられた仙台市民—’78宮城県沖地震から近代都市は何を学ぶべきか！—。
政経東北：7巻7号，88～93頁，昭53.7.
- (263) 東北財界（編集部）：宮城県沖地震で泣いた人笑った人—被害額は県下で2000億円を上回る—，東北財界：4巻3号，3～6（グラビア），24～27頁，昭53.8.
- (264) 玉手 統：宮城県沖地震の教訓，工業教育（JSEE）：26巻2号，15～19頁，昭53.10.
- (265) 防災：’78宮城県沖地震の被害記録から—昭53.6.12・17時14分・M7.4—。
防災：57号，〔口絵写真〕昭53.9.
- (266) 菅原 済・猪股義祐・伊藤整史：1978年宮城県沖地震災害について。
防災：57号，50～57頁，昭53.9.
- (267) 小林基夫：宮城県沖地震ノート。
防災：57号，40～49頁，昭53.9.
- (268) 文化評論編集部：宮城県沖地震の経験から学ぶもの—てい談・藤井陽一郎，庄司幸助，浅見善吉—。
文化評論：209号，106～133頁，昭53.9.
- (269) 日本通運株式会社東北支店：宮城県沖地震の教訓，仙台，同支店，昭53.7.5頁。
- (270) 跡部進一：宮城県沖地震の教訓，
ヒンサークルニュース：34号，2～9頁，〔 〕
- (271) びるちんぐ：宮城県沖地震について〔東北特集・座談会，第1部〕，びるちんぐ：111号，17～50頁，口絵写真，昭53.11.
- (272) 渡辺義夫：地震と私の体験，
びるちんぐ：111号，67～69頁，昭53.11.
- (273) 男沢 裕：あの時，
びるちんぐ：111号，67頁，昭53.11.

建築・設備

- (274) 広沢雅也・杉村義広：1978年6月12日宮城県沖地震による建築物等の被害—その1—，建築技術：326号，91～107頁，昭53.10.
- (275) 板硝子協会：宮城県沖地震（53年2月及び6月）における建築物のガラスの破損状況調査結果とその対策，
東京，同会，昭53.7.10頁。
- (276) 日本電子計算機株式会社技術部技術課：情報処理の安全対策—宮城県沖地震の被害と地震対策—，
東京，同社，昭53.8.48頁。
- (277) 地方自治情報センター：宮城県沖地震におけるコンピュータの被害とその復旧状況，
地方自治コンピュータ：8巻7号，65～66頁，昭53.7.
- (278) 田口孝弘：情報処理の安全対策—宮城県沖地震をふりかえって—，地方自治コンピュータ：9巻2号，11～21頁，昭和54.2.
- (279) 日本建築学会中国支部構造委員会：1978.6.12.宮城県沖地震被害調査報告（第2回建築構造研究懇話会資料），
広島，同委員会，昭53.9.22頁。
- (280) 東北工業大学災害対策学内本部施設被害調査委員会：’78宮城県沖地震による東北工業大学の建物施設の被害調査報告書，
仙台，同委員会，昭53.8.172頁，附図95枚，（部内資料）
- (281) 建築業協会：宮城県沖地震被害状況調査報告書，東京，同会，昭53.9.142頁。
- (282) 鋼材倶楽部：1978年宮城県沖地震の被害調査報告—主として鋼構造物を対象として—，東京，同部，昭53.8.133頁。
- (283) 奥村組：宮城県沖地震の被害調査報告，
大阪，同組，昭53.7.26頁，付図，（部内資料）
- (284) 渡部 丹：問題点多い二次部材—宮城県沖地震の教訓—，
近代消防：16巻9号，76～79頁，昭53.9.
- (285) 宮島信雄：水道用鋼管の耐震設計—宮城県沖地震における被害の分析と技術上の提案—，スチールデザイン：185号，36～39頁，昭53.10.

- (286) 日本ヴィクトリック（株）：宮城県沖地震に於けるクローザージョイントー調査報告書（昭和53年6月12日宮城県）一。
東京、同社、昭53.8. 21頁。
- (287) 小美野英男：宮城県沖地震にみるFRP高置水そうの現状。 ヒンサークルニュース：34号、13～19頁。〔 〕
- (288) 古田義弘：被害を大きくした無理な宅地造成一望まれる個人住宅の救済策一。
政経東北：7巻9号、32～36頁、昭53.9.
- (289) 三菱建設株式会社：オビスン(株)ビル宮城県沖地震被害調査表。〔東京〕〔同社〕〔 〕〔23頁〕（部内資料）
- (290) 三菱建設株式会社：木下(株)ビル宮城県沖地震被害調査表。
東京、同社、〔 〕〔17頁〕（部内資料）
- (291) 後藤一雄：宮城県沖地震における2棟の鉄筋コンクリート構造物の被害に関する考察。〔東京〕〔三菱建設K. K.〕昭53.6. 7頁。（部内資料）
- (292) 平井和喜：KビルおよびOビルのコンクリート強度等調査・試験結果報告書。
〔東京〕〔三菱建設K. K.〕昭53.6. 3頁。（部内資料）

ライフライン

- (293) 仙台簡易ガス協会：'78宮城県沖地震・簡易ガス関係報告書。
仙台、同会、〔 〕22,表2枚,2頁。
- (294) 日本簡易ガス協会宮城県沖地震簡易ガス事業関係被害調査団：宮城県沖地震・簡易ガス事業関係被害調査団報告書。
東京、同協会、昭53.9. 61頁。
- (295) 松屋嘉男：宮城県沖地震を体験して。
日本の水道鋼管：11巻2号、66～71頁、昭53.10.
- (296) 東北電力（株）：1978年宮城県沖地震災害報告書。仙台、同社、昭53.12. 152頁。
- (297) 通商産業省仙台通商産業局公益事業部：'78宮城県沖地震災害報告。
仙台、同部、昭53.7. 54頁。（部内資料）

通信

- (298) 日本電信電話公社東北電気通信局経営調査室：都市圏における災害と情報—1978年宮

城県沖地震を中心に—（経営資料53—4）。
仙台、同室、昭53.10. 174頁。

商工・金融業

- (299) 宮城県印刷工業組合・仙台印刷工業団地協同組合：1978年宮城県沖地震—印刷業界の被害報告一。仙台、同組合・同協同組合、昭53.9. 17頁。
- (300) 斎藤定雄：宮城県沖地震による工業用水道施設の被害と対策（昭和53年度第2回工業用水・排水ゼミナール）。
東京、日本工業用水協会、〔昭53.8〕42頁。
- (301) 堀村勝美：「地震保険」の仕組みと問題点〔特集・宮城県沖地震の教訓・Ⅲ〕。
政経東北：7巻8号、24～25頁、昭53.8.

教育・研究

- (302) 吉居 命：地震だ／こんな盲点が……。Isotope news：295号、38～39頁、昭54.1.
- (303) 宮城県立聾学校（菊地清治）：宮城県沖地震時の本校児童生徒の実態—アンケートのまとめ—。仙台、同校、昭53.7. 8頁。
- (304) 仙台市立函南高等学校（小原 淳）：宮城県沖地震に関するアンケート調査。
仙台、同校、〔昭53〕8頁、付図。
- (305) 長尾公司：地震と図書館用家具—東北大学附属図書館の事例—。丸善ライブラリーニュース：113号、12～13頁、昭54. Winter.
- (306) 本田 明：宮城県沖地震被害の予備調査報告—図書館での被害状況—。
丸善ライブラリーニュース：113号、12～13頁、昭54. Winter.

医療・社会福祉施設

- (307) 安田恒人：宮城県沖地震における救急医療。宮城県医師会報：395号、453～457頁、昭53.12.〔第3回医政科学学会・シンポジウム・3〕
- (308) 仙台市医師会：宮城県沖地震における仙台医療圏の被災状況—昭和53年6月12日17時14分発生—。仙台、同会、〔 〕7頁。
- (309) 仙台市医師会：宮城県沖地震における仙台医療圏の被災状況・特集。
仙台市医師会報：171号、2～7頁、昭53.9.

- (310) 常麻 忠・山形敏一他：宮城県沖地震によって発生したと思われる内科的疾患。
日本医事新報：2851号。29～31頁。昭53.12.

防 災

- (311) 消防庁消防課：宮城県沖地震における消防機関の活動状況について。
日本消防：31巻10号。19～23頁。昭53.10.
- (312) 近代消防：都市型地震と今後の震災対策—宮城県沖地震の教訓と課題—（特別座談会）。近代消防：16巻9号。50～63頁。昭53.9.
- (313) 黒田正典：緊急災害時における都市の防災システム—新潟地震と宮城県沖地震との比較でみる—。
政経東北：7巻9号。37～40頁。昭53.9.

世論調査

- (314) 宮城県広報課：「1978年宮城県沖地震」を県民はどう受けとめたか—地震アンケート調査の結果から—。
日本消防：31巻10号。36～45頁。昭53.10.

- (315) 宮城県生活環境部消費流通課：「宮城県沖地震」についてのアンケート調査結果表。
仙台。同課。〔 〕7頁。（部内資料）
- (316) 復建技術コンサルタント（株）：1978年宮城県沖地震被害アンケート調査結果報告。
仙台。同社。昭53.9. 11頁。付図。（部内資料）
- (317) [仙台ビルディング協会]：宮城県沖地震アンケート調査集計表（昭和53年8月2日調査）。仙台。同会。〔3頁〕（部内資料）

行 政

- (318) 行政管理庁東北管区行政監察局：宮城県沖地震に関する実態調査。
仙台。同局。昭53.10. 77頁。資料22頁（管内参考報告書一部内資料—）
- (319) 針生重雄：宮城県沖地震と共済組合のかかわり。公済時報：29巻8号。20～25頁。昭53.8.
- (320) [宮城県総務部職員厚生課]：宮城県沖地震災害に遭って。
樺・職員厚生：20号。9～14頁。昭53.9.

***** * 資 料 紹 介 * *****

国内の洋書（リポート、会議録を含む。）の所在を調べる書誌を紹介する。ここにあげたものは、いずれも本館が所蔵するものである。

1 新収洋書総合目録 (Union Catalog of Foreign Books in Japan) 1954— 年刊 国立国会図書館 1958—

1958年国立国会図書館が、1954年度中に全国15の大学図書館、2の公共図書館から送付を受けた整理済洋書の目録カードに自館の分も加えて全国的規模で作成した我が国の洋書の所在を示した総合目録で、18館、約58,000標目を収録している。以来毎年刊行され、協力館、収録資料数ともに増加し、1975年版では51館、117,636標目の目録情報を収録している。記載は各館が提供したカードをそのまま利用し、著者名又は書名のアルファベット順配列とし、それぞれの所蔵館を付記してある。

2 学術文献総合目録 欧文言語学編 文部省大学学術局 昭和27 (1952) 年

3 学術図書総合目録 全8冊 日本学術振興会 昭和30(1955)—36(1961) 年

2, 3の二つの目録は、年代的には1に先立つか、あるいは重複するものだが特定主題の総合目録である点で1と異なる。2は欧文言語学に限り、3は動物学、化学、数学、物理学、地学、教育学、図書館学、人文地理学の8主題、8分冊の独立した総合目録である。記載は、それぞれ標目のアルファベット順で、1同様その所蔵館名が表示してある。しかし、調査期日、収録対象館数がまちまちで不統一である点を除けば、1とあわせて利用することにより、戦後の国内の洋書についてその所在をおおよそとらえることができるので、利用価値がある書誌と言えよう。この三点は、我が国の洋書の全国書誌として利用できる。このほかにも、各図書館において独自に多くの所蔵目録が作られている。ここでは、その中から国立国会図書館、東京大学附属図書館、京都大学附属図書館の三館について主要な目録を紹介する。

4 国立国会図書館

蔵書目録 洋書編 昭和23—33年 全2冊
昭和28年

1—3が全国書誌であるのに対し、これは同館だけの所蔵目録である。上記期間中に受入られた洋書扱いの図書、逐次刊行物（国内刊行の外国語図書も含まれる）の目録で、同館の洋書目録情報としては1に先立つものである。記載は、主題にわけられ、標目のアルファベット順に配列してあるが、児童図書、学習参考書、原子力リポート類、文学作品は除外してある。第2巻末に著者名索引がある。

帝国図書館洋書目録 全6巻 明治31—36年
——— 増加部 第1編 明治39年

洋書速報 半月刊 昭和31年4月—

同館が受入整理した洋書の速報。

内閣文庫洋書分類目録 英書篇 上下 昭和47年

内閣文庫蔵書のうち、震災及び戦災によって失われたものを除き、現在利用できる文庫蔵書のうち英語の図書だけを集めたもの。

国立国会図書館の洋書の資料としては、そのほかに各部、課が刊行している各主題ごとの所蔵目録があるので、ここではそのタイトルのみを挙げておく。

外国政府刊行物受入案内 半月刊 収集整理部

外国原子力機関刊行資料月報 科学技術課

外国航空・宇宙文献目録 科学技術課

海外科学技術資料月報 科学技術課

——— PB・ADリポート年集積版 1971—

PBリポート所蔵目録 第1—5巻 科学技術課 昭和42—50年

ADリポート所蔵目録 第1—4巻 科学技術課 昭和47—51年

科学技術関係欧文会議録目録 1948—1969

科学技術課 昭和47年

国際連盟・国際連合刊行資料目録 第1—4巻 一般参考課 昭和46—53年

日本関係欧文図書目録 昭和23—50年 参考書誌部 昭和52年

アジア・アフリカ資料通報 アジア・アフリカ課

5 東京大学附属図書館

Author Catalogue of the Library of Teikoku-Daigaku, Tokyo 1891

創設期より明治20年までの収書目録

Catalogue of the Library of the Tokyo Teikoku Daigaku, 1896—97

1891から94の間の収書目録

Monthly Bulletin of Books added to the Imperial University of Tokyo, 1914—17

お 知 ら せ

○入館券の交付について

東北大学附属図書館（本館）を利用する本学教職員及び学生は、利用者として登録をし入館券の交付をうけて下さい。特に、新入生・学部進学の新入生は、入館券の申込をし、交付を受けないと図書館の利用が出来ませんのでご注意下さい。入館券の申込受付は、4月10日（火）から学生は開架カウンター（2階）、教職員・院生はメインカウンター（1階）でおこなっています。

○時間外開館について

昭和54年度の時間外開館の実施期間は、下記の通りです。なお開館時間は9時から、平日は18時30分まで、土曜日は15時までです。

実施期間 4月9日（月）～7月7日（土）

9月3日（月）～12月15日（土）

55年1月7日（月）～2月23日（土）

Catalogue of Foreign Books in the Tokyo Imperial University 1923—35 vol.1 1943

Supplement	1 (1935—36)	1938
	2 (1936—37)	1939
	3 (1938)	1941
	4 (1939)	1842
	5 (1940)	1944
	6 (1941—45)	1955

6 京都大学附属図書館

Katalog der Fremdsprachigen Bücher in der Bibliothek der Juristischen Fakultät der Kaiserlichen Universität zu Kyoto. 1903

明治32～35年9月にかけての収書目録。

——— 2. Ausg. 1913

創館より明治43年までの収書目録。

Catalogue of European Books in the Kyoto Imperial University Library, 1897—1913 (Authors) 1919.

創設より大正2年までの購入及び寄贈の図書で法科大学のものは除いた目録。

Katalog der Fremdsprachigen Bücher in der Bibliothek der Juristischen und der Wirtschaftswissenschaftlichen Fakultät der Kaiserlichen Universität zu Kyoto. Bd. II (1911—1919) 1932.

——— Bd. III (1919—1928) 4 vols. 1933—35.

その他多くの大学図書館が数多くの蔵書目録を刊行しているが、ここでは紙面の都合もあり省略する。

国立大学等間における文献複写業務の改善について

学術情報の発達により大学図書館間の文献複写による相互利用は急増しているが、従来までは入手する迄の事務手続が複雑なために迅速にサービスするには限界があり、利用者の要求に添わない点があった。かねてより文部省ではこのことに意を注がれ、「国立大学等図書館相互における文献複写業務実施要項（昭和53年12月19日）」^(注)が決定し昭和54年4月1日から実施されることになった。これにより今後の文献複写サービスの進展に寄与することが予測される。なお公立、私立、その他の国立機関等の大学・専門図書館内における文献複写については現時点では予算上の根本的な問題があり、国立大学等と同一なシステムは考えにくく従来通りとなるが、複写サービスの迅速化が促進されることを願っている。

従来の方式では本館と医学分館と二館のみが受付館であったが、新方式では工学分館、農学分館が加わり、四館が受付館、依頼館となった。実施に先立ち、本館では各部局図書室に対する説明会を開催して、新方式の周知方及び実施上注意すべき点等について詳細に説明をした。

次にこの「要項」について概要を述べてみよう。

「依頼館」とは学内の申込者から文献複写の申込を受けて、他の国立大学等に依頼する図書館をいう。

「受付館」とは依頼館から文献複写の依頼を受ける図書館をいう。

依頼館となることができる図書館は、(1)学内で予算の振替ができること。(2)私費支弁による文献複写の申込みを受けたとき現金収納事務が可能であること。

受付館は文献複写に関する学内現程に従い文献複写に応ずることができること。

依頼館としては利用者より申込のあった文献複写を依頼書A・B・Cにより受付館に対し文献複写の依頼を行う。従来利用者が本館で申込手続をしていたが、身近な図書室、分館でもできるようになった。（別表参照）

私費支弁による場合の申込みは依頼書を受付館へ送付し、受付館より製品と複写経費通知(C票)が同封、送付されてくる。申込者は依頼館で料金と引きかえに製品を受け取ることになる。従来の前納制で、最初料金通知書が来て申込者に通知し、現金書留で受付館に送金し、その後に複写製品が送付されてくるという中間的な日数がなくな

り、それだけ早くなる。また校費の場合は従来の債権発生事務(納入告知書)および負担行為手続がなくなり、予算の振替によって行なわれるので利用者にとっても便利になった。

受付館としては従来他大学より受付けた工学・農学部所属の文献についても直接本館の相互利用掛員が出向いて調査・借用していたが、今後各分館で受付より複写まですることになってその往復の手間が省略されるので、複写サービスは迅速に処理されることが可能となる。

処理された製品はC票と共に依頼館へ送付され、依頼館は上半期(4月～9月)、下半期(10月～3月)毎に依頼書B票をまとめて複写データ処理センター(大阪大学)に送付し、そこで集計後夫々10月31日及び4月30日までに所定のリストが作成され文部省及び各国立大学等へ送付されることになる。それにもとづいて本館では年2回11月と5月に学内振替又は組替を行う予定にしている。

文部省では、複写データ処理センターから送付されるリストに基づき、国立学校特別会計予算「(項)国立学校(事項)図書館経費」により、国立大学等間における予算の振替を行うこととなる。

なお本館の場合は私立、公立大学等との文献複写受付、申込と比較的数量的には大きいので、全般的にみて事務手続等が簡易化されたことにはならないが、国立大学等間の、この改善が今後の文献複写利用についての一つの突破口を与えるものとして意義があると思う。

(注)「国立大学等とは国立大学、国立高等専門学校、国立短期大学で「図書館コード表」に記載されているものをいう。今後新制大学が創設されれば増えて行く。

質問等ありましたら各図書室、分館、本館の担当者にお尋ね下さい。

別表 東北大学における受付の窓口

図 書 館 名	受付館が窓口となる部局
東北大学 附属図書館 中央図書館 (本館)	文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・教養部・金属材料研究所・選鉱製錬研究所・科学計測研究所・高速力学研究所・電気通信研究所・非水溶液化学研究所・大型計算機センター・応用情報学研究センター・サイクロトロンRIセンター
〃 医学分館	医学部・同附属病院・同鳴子分院・歯学部・同附属病院・薬学部・抗酸菌病研究所・医療技術短期大学部
〃 工学分館	工学部
〃 農学分館	農学部・農学研究所

(相互利用掛)

「須永文庫」整理報告

本学名誉教授、故須永重光氏（元農学研究所）の旧蔵書を先生のご遺志により、昭和52年5月に寄贈を受けることになった。先生は、農業経済学の領域における農業技術、日本地主制に関する分野の権威であり、東北農業の特質構造についてこれを農業経済学の立場から総合的に体系づけられた方である。

同文庫の蔵書構成は、分類別統計表から見ると、学問全分野にわたって収集されているが特に冊数の多いものは、経済・産業分野の農業・林業・水産業、統計・統計資料、経済学・経済思想、経済史・事情、社会・労働分野の社会科学、社会学、社会保障、労働、社会思想、歴史・地理分野の地方史・誌（日本）、科学技術分野の農林水産学に関する論文、調査資料及び農業・農政会議資料である。

このコレクションは、和・洋単行書が3,648冊、研究報告・紀要・定期刊行物類838冊、農業会議・農政会議資料1,654冊、新聞（日本経済新聞、昭和21年～50年）140冊で合計6,316冊に及ぶ膨大なコレクションである。

須永文庫の整理業務は、図書館の日常業務とは切り離して整理することとし、学内のご協力を得て臨時経費400万円による2年次計画として昭和52年5月中旬から、臨時アルバイト職員（司書資格を有するもの）を採用して開始した。資料の搬入・選定・評価・受入業務、目録業務、分類業務、目録カードの複製、カード目録の編成等と整理業務を進め、本年3月をもってすべての業務を終了し、利用者に対するサービスが可能な状態となった。

同文庫の利用については、附属図書館（本館）をはじめ、農学分館、農学研究所図書室にもカード目録を備付けておりますので利用されることを期待する。

最後に、同文庫の整理業務の経過について見ると、整理に要した日数は延499.5日間、延人員は1,231.5人であり、その内訳は別表の通りである。

なお、整理業務の終了に伴ない、「須永文庫」の整理に直接携わった整理要員の方々をはじめ、常に応援態勢をとっていただいた整理課の皆様方に感謝の意を表し整理報告といたします。

（和漢書目録掛）

第1年次整理業務

業務内容	整理期間	整理日数	整理人員	備考
資料の搬入 資料の選定 明細書の作成 資料の評価	昭和52年5月18日 昭和52年6月20日	26.5日	195人	整理要員6名
受入・登録 蔵書印の押印	昭和52年7月1日 昭和52年8月1日	24.5日	73.5人	整理要員3名
目録業務	昭和52年8月2日 昭和53年2月7日	136.5日	385.5人	整理要員S. 53.1.14から2名
分類業務	昭和53年2月8日 昭和53年3月31日	40日	80人	分類はNDLCの大綱による

第2年次整理業務

分類業務	昭和53年5月1日 昭和53年7月17日	95.5日	191人	整理要員2名
目録カードの配列、資料の配架	昭和53年7月18日 昭和53年9月4日	38.5日	81人	分類別書名のABC順
図書記号の付与、ラベル作成貼付	昭和53年9月5日 昭和53年11月7日	47日	94人	
目録カードの複製及び仮配列	昭和53年11月8日 昭和54年1月9日	40.5日	81人	複製方法XEROX 4連式複製枚数39,753枚
カード目録編成	昭和54年1月10日 昭和54年3月17日	50.5日	50.5人	整理要員1名

499.5日 1,231.5人

須永文庫分類別統計表

分類	和書	洋書	計
A: 政治・法律・行政	183冊	13冊	196冊
B: 議令資料	16		16
C: 法令資料	54	1	55
D: 経済・産業	3,206	142	3,348
E: 社会・労働	277	97	374
F: 教育	29	1	30
G: 歴史・地理	313	11	324
H: 哲学・宗教	72	3	75
K: 芸術・文学・語学	70	9	79
M-S: 科学技術	586	18	604
U: 書誌・図書館	38	14	52
Z: 雑誌 新聞	905 140	118	1,023 140
合計	5,889	427	6,316

行事

- 第10回国立大学図書館東北地区協議会
期 日：昭和54年4月19日～20日
会 場：弘前大学附属図書館

- 第26回国立大学図書館協議会総会
期 日：昭和54年6月21日～22日
会 場：大阪大学

人 事 異 動

発令月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
54. 4. 1	整理課和漢書目録掛	板垣とく子	辞 職	
"	医学分館事務長	松川衛子	九州大学附属図書館整理課長	昇 任
"	整理課受入掛	八巻基子	電気通信研究所総務課図書掛長	"
"	" "	五十嵐行衛	仙台電波工業高等専門学校庶務課 図書係長	"
"	閲覧課長	石川亮男	筑波大学図書館部学術情報課長	配 置 換
"	旭川医科大学教務部図書課長	石谷本幹	閲覧課長	"
"	大阪大学附属図書館整理課 課長補佐	木本明男	医学分館事務長	"
"	総務課会計掛長	白鳥司郎	応用情報学研究センター総務掛長	"
"	学生課課外活動掛長	山岸好雄	総務課会計掛長	"
"	総務課企画・渉外掛長	田代寛	閲覧課閲覧掛長	"
"	整理課洋書目録掛長	遠藤哲朗	総務課企画・渉外掛長	"
"	" 受入掛長	米沢彰	整理課洋書目録掛長	"
"	" 和漢書目録掛長	阿部寿雄	" 受入掛長	"
"	閲覧課閲覧掛長	阿石田義光	" 和漢書目録掛長	"
"	" 参考調査掛長	櫻田俊一郎	医学分館整理掛長	"
"	" 相互利用掛長	相馬正基	閲覧課参考調査掛長	"
"	医学分館整理掛長	中島甫子	" 相互利用掛長	"
"	総務課庶務掛	佐藤博子	総務課企画・渉外掛	"
"	人事課職員第二掛	伊藤希子	" 庶務掛	"
"	医学部教務掛	橋本美知子	" 企画・渉外掛	"
"	整理課洋書目録掛	沼田恵美子	閲覧課参考調査掛	"
"	閲覧課参考調査掛	渡部昌子	整理課洋書目録掛	"
"	" 閲覧掛	栃原孝夫	" 受入掛	"
"	" "	阿食秀昭	医学分館整理掛	"
"	医学分館整理掛	松元義正子	閲覧課閲覧掛	"
"	農学研究所図書室	岩崎道子	" "	"
"	総務課会計掛事務補佐員	遠藤ひとみ	教養部管理掛事務補佐員	"
"	教養部奨学掛 "	佐藤せい子	総務課会計掛 "	"
"	総務課企画・渉外掛 "	佐藤和子	整理課和漢書目録掛 "	"
"	整理課洋書目録掛 "	今泉みはる	閲覧課閲覧掛 "	"
"	閲覧課閲覧掛 "	千葉恵子	整理課洋書目録掛 "	"
"	工学部機械工学科図書室	早坂貞子	辞 職	
"	農学分館図書掛	鹿井はつよ	農学研究所図書室	配 置 換
"	電気通信研究所図書室	前田裕子	農学分館図書掛	"

計 報

編 集 後 記

本学理学部図書掛長塚原清二氏は、病気のため4月2日逝去されました。氏は昭和25年に東北大学附属図書館に奉職し、爾来約29年間図書館業務に専念されました。理学部図書掛長として青葉山移転を完了した矢先、忽然として逝去されたことは痛ましい限りです。

氏の仕事ぶりは、持前のねばりと器用さに加えて常に誰にも負けまいとする気概に溢れていました。閲覧掛・雑誌掛・和漢書目録掛・工学部中央図書室の各仕事を担当され、昭和43年に書庫掛長に昇任されました。特に本館の川内移転に際して生来の真面目さを発揮した活躍は永遠に忘れ難いものがありました。

常に塚ちゃんのお愛称で人より親しまれ、斗酒なお辞せず、表面上の強がりの反面さびしがりやで、又植物を愛されました。

今後の活躍を期待されていたところ、惜しみても余りあるものと思います。ここに謹んで哀悼の意を表し、御冥福を祈ります。

木這子も創刊以来すでにまる三年たち、本号で創刊に立ち会った最後の委員が交替する。編集にあたって毎号頭を悩まされたのは、図書館に関する興味をそそる記事で巻頭にふさわしく、かつ館内の図書館員の手になるものの不足であった。木這子の内容は業務報告が主である為に堅苦しくなり、これを救う為にも巻頭にこのような記事を書けることがどうしても必要であった。木這子は本館の職員の活動を外部に知らせる身近なメディアである。これを大いに活用し、どしどし寄稿してほしい。

東北大学附属図書館報「木這子」 第4巻 第1号（通巻第13号）昭和54年4月28日発行
編集委員長 渡部昌子 編集委員 竹原悦郎、遠藤哲朗、星 政則、湯本一義、山本カツ子
発行人 長尾公司 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (2408)